



2025年4月14日

日本鉄道労働組合連合会

城井たかし衆議院議員

## 衆・国交委で地域公共交通の「リ・デザイン」促進を求める

JR連合「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」所属の城井たかし衆議院議員は3月14日、衆議院の国土交通委員会で中野洋昌国土交通大臣に対し、地域公共交通の「リ・デザイン」促進を求めた。



立憲民主党・無所属  
城井 崇

城井議員はまず、国は2023年に改正された地域交通法に基づき、持続可能な地域公共交通へと「リ・デザイン」を促進させると説明していたが、実際には、「各地で路線の存廃議論につながることを危惧した消極的な反応や、また改正法の趣旨に逆行するような取り組みがある」旨指摘した。これに対し、中野大臣は同法で設置可能となった「再構築協議会」に触れ、「再構築協議会では路線存廃の前提を置かずに対策案を検討し、関係者の合意形成を図る」旨説明し、こうした制度を活用して持続可能な地域公共交通の実現に取り組む旨答弁した。



国土交通大臣担当  
水循環国際園芸博覧会担当  
中野 洋昌

さらに城井議員も同協議会に触れ、「当事者だけでは議論自体をスタートさせにくく、議論をまとめるににくい」と指摘し、「そうした関係主体の議論が円滑となるよう国が政策推進を図るべき」と投げ掛けた。中野大臣は「地域と事業者との間での調整に委ねるだけでは議論が進まないのは指摘の通り」との認識を示し、「社会資本整備総合交付金」による予算面での支援も活用しながら、地域に対して

適切な助言を行うなど積極的な取り組みを行う旨答弁した。

改正地域交通法施行から約1年半が経過するが、「再構築協議会」の設置は芸備線関係の1件に留まる。こうした制度活用が進まない実態の把握を行など、JR連合としても持続可能な地域公共交通への「リ・デザイン」促進に取り組んでいく。